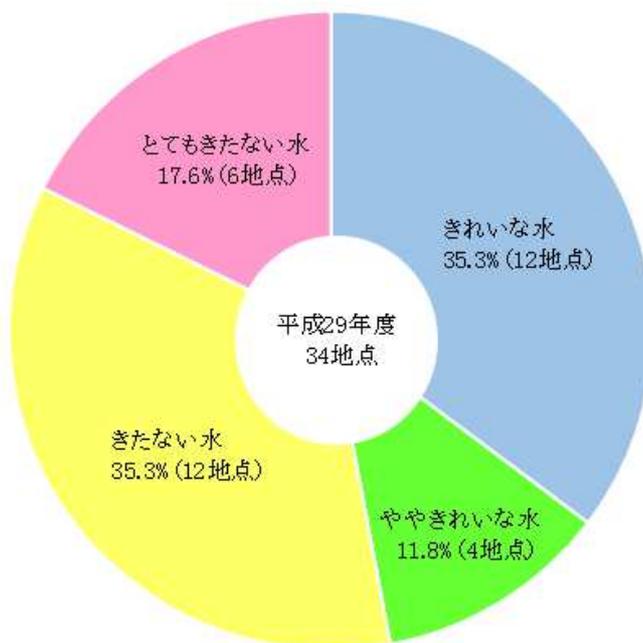


## 2. 調査結果

### (1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 12 地点(35.3%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 4 地点(11.8%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 12 地点(35.3%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 6 地点(17.6%)であった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

### (2) 前年度に対する水質階級の比較

平成 29 年度の調査地点 34 地点のうち 23 地点が平成 28 年度と同じ地点での調査であった。これらの 23 地点の水質階級を比較すると、同じであったところが 13 地点、良くなったところが 3 地点、悪くなったところが 7 地点であった。(表 2)

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	3	13	7	23
割合 (%)	13.1	56.5	30.4	100

### (3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

#### (4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物		指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
			頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1	アミカ類	3	1.6	32.6	0	0.0
	2	ナミウズムシ	6	3.2		3	4.5
	3	カワゲラ類	8	4.3		2	3.0
	4	サワガニ	11	5.9		4	6.1
	5	ナガレトビケラ類	5	2.7		1	1.5
	6	ヒラタカゲロウ類	12	6.4		5	7.6
	7	ブユ類	2	1.1		0	0.0
	8	ヘビトンボ	4	2.1		1	1.5
	9	ヤマトビケラ類	4	2.1		1	1.5
	10	ヨコエビ類	6	3.2		2	3.0
II ややきれいな水	11	イシマキガイ ※	5	2.7	27.8	3	4.5
	12	オオシマトビケラ	5	2.7		0	0.0
	13	カワニナ類	10	5.3		2	3.0
	14	ゲンジボタル	0	0.0		0	0.0
	15	コオニヤンマ	8	4.3		1	1.5
	16	コガタシマトビケラ類	6	3.2		3	4.5
	17	ヒラタドロムシ類	12	6.4		4	6.1
	18	ヤマトシジミ ※	6	3.2		1	1.5
III きたない水	19	イソコツブムシ類 ※	2	1.1	28.9	1	1.5
	20	タニシ類	14	7.5		6	9.1
	21	ニホンドロソコエビ ※	6	3.2		3	4.5
	22	シマイシビル	17	9.1		9	13.6
	23	ミズカマキリ	5	2.7		1	1.5
	24	ミズムシ	10	5.3		5	7.6
IV とてもきたない水	25	アメリカザリガニ	7	3.7	10.7	3	4.5
	26	エラミズ	2	1.1		0	0.0
	27	サカマキガイ	4	2.1		2	3.0
	28	ユスリカ類	5	2.7		2	3.0
	29	チョウバエ類	2	1.1		1	1.5
合 計			187	100	100	66	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。